

Topics

進藤金日子総務大臣が豊川用水及び木曽川用水を視察されました

8月26日(水)、独立行政法人制度を所管する総務省の進藤金日子総務大臣政務官(当時)が、独立行政法人である水資源機構の役割や課題解決に取り組んでいる事例等、様々な角度から機構の運営実態を確認するため、中部支社管内の豊川用水及び木曽川用水を視察されました。

木曽川水系・豊川水系



進藤総務大臣政務官

「併設水路の工事は難工事も多いと思うが、大規模地震時にも継続して用水の安定供給が出来るよう、計画どおり事業進捗を図ってほしい」



現場視察の様子(駒池)

2 豊川用水・現場視察(千両第一揚水機場)

農業用水を田畑に加圧供給する揚水機場を視察され、老朽化が進行している実態、大規模地震等発生時の施設周辺への被害想定等について、機構及び豊川総合用水土地改良区から説明を受けられました。



現場視察の様子
(千両第一揚水機場)

進藤総務大臣政務官

「老朽化などの施設が抱える課題をしっかりと把握しつつ、その対策が着実に実施できるよう、必要に応じて事業制度を見直していくことも必要だと感じた」

3 利水者ヒアリング

機構の施設が地域の農業、生活及び工業などの地域振興にどのように貢献しているかなどについて、進藤総務大臣政務官から愛知用水及び豊川用水の関係利水者に対するヒアリングが行われました。

都市用水の代表利水者として、愛知県企業庁からは、県内の水道用水・工業用水の使用水量、受水市町村、受水団体、機構施設との関連について説明がありました。

また、農業用水の代表利水者として、愛知用水土地改良区及び豊川総合用水土地改良区からは、愛知用水・豊川用水の通水によって地域の農業が発展したこと、地区内の農業経営、施設の老朽化および耐震上の課題等について説明がありました。



利水者ヒアリングの様子 挨拶をされる進藤総務大臣政務官

進藤総務大臣政務官

「独立行政法人制度を所管する総務省として、独立行政法人が社会的な課題解決に取り組んでいる事例を様々な機会を捉えて積極的に国民に発信していなければならないと考えている。そのためには、水資源機構が果たしている役割を正しく認識する必要がある。」

本日、ヒアリングを実施して、水資源機構の施設がストック効果*として地域へ果たす役割が大きいことが理解できた。

一方で、施設の老朽化や耐震対策などの課題があり、それに対する利水者からの要望もある。

施設を建設した当時と現在では、社会経済情勢が変わってきている。現在の制度設計で利水者からの要請に応えられるのか、しっかりと考えていかなければならない」

*ストック効果

整備された社会資本(=インフラ)が十分に機能することで、整備直後から継続的かつ中長期にわたって得られる効果のこと



ストック効果のPR資料

1 豊川用水・現場視察(併設水路工事)

豊川用水二期事業*で実施中の、西部幹線の併設水路工事の現場を視察されました。

工事現場では、二期事業の概要、併設水路の効果及び工事概要について説明を受けられました。

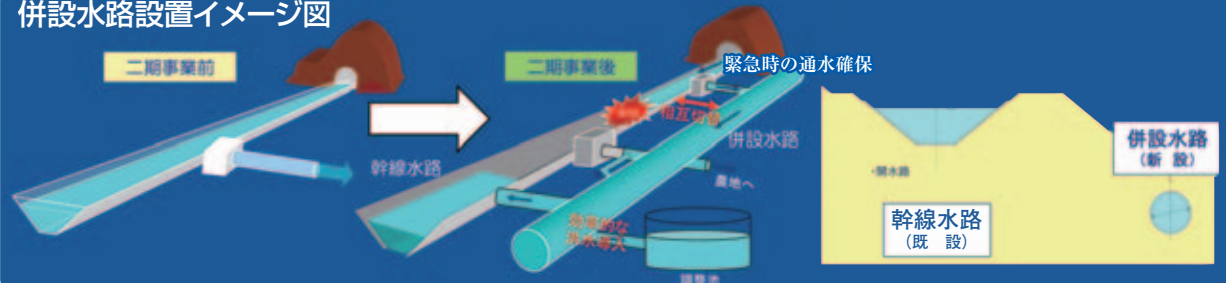
* 豊川用水二期事業

豊川用水の安定的な通水と今後発生危険性が高まる大規模地震への対策として、幹線水路を複線化(鋼管等による併設水路の新設)し、既設水路の老朽化対策及び耐震対策を行うものです。

なお、幹線水路の複線化により、今後は断水することなく水路の維持管理、補修等が可能となります。

工期は令和12年度までの予定です。

併設水路設置イメージ図



4 木曽川用水・現場視察(立田第二揚水機場)

立田第二揚水機場は施設の建設から約40年が経過しており、施設の老朽化、周辺の地盤沈下の影響による配管の変位、吸水槽の不等沈下の状況について、機構及び海部土地改良区から説明を受けられました。

揚水機場は、8月に降雨量が少なく猛暑であったことの影響により、24時間フル回転の状況であり、設備が故障した場合は影響が大きいことから、早期の老朽化対策が必要であることを理解いただきました。

進藤総務大臣政務官

「地元にとって非常に大切な施設であること、施設の機能低下が深刻であることを確認することができた。地元が直面している課題解決に向けてしっかりと支援していきたい」



現場視察の様子(立田第二揚水機場)

今回の視察を通して、水資源機構の役割をご理解いただき、また、暖かい激励の言葉をかけていただき、職員にとって大きな励みとなりました。進藤総務大臣政

務官からの意見・助言を踏まえつつ、今後とも引き続き、利水ユーザーの期待に応えられるよう、安定した用水供給に努めてまいります。